

ひめした 姫下遺跡(本発掘調査B)

所在地 安城市姫小川町地内
(北緯34度54分45秒 東経137度05分47秒)

調査理由 緊急防災対策河川事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和3年6月～9月

調査面積 620㎡

担当者 堀木真美子・武部真木



調査地点(1/2.5万「安城・西尾」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課知立建設事務所による緊急防災対策河川事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。鹿乗川および同排水路左岸で新たに事業用地となった1区画について、620㎡の調査を行った。

立地と環境 遺跡は、安城市東部に位置し、碧海台地に沿って流れる鹿乗川東岸の標高7m前後の沖積地上に立地する集落遺跡である。西岸の台地上には桜井古墳群が分布し、最大規模の姫小川古墳をはじめ、崖古墳・姫塚古墳・獅子塚古墳が遺跡に近接して並んでいる。

遺跡自体の調査は昭和48年の安城市教育委員会の発掘に始まり、これまでの調査成果は弥生時代・古墳時代初期～前期・古墳時代後期・平安時代～室町時代・江戸時代後期～明治の5期の変遷として整理され、集落の中心的な活動時期となる古墳時代前期の出土遺物には、人面文土器を含む線刻土器や布留系土器群のほか、農具や工具、祭祀具、大型建築材を含む大量の木製遺物が知られている。

調査の概要 調査地点は姫下遺跡の南端付近にあたり、北側は姫下遺跡14区、現道を挟んだ南側は寄島遺跡14E区であり、両調査区に挟まれた範囲である。今回の調査地点では一部で古墳時代前期の包含層が確認でき、また中世から近世の構築と推定される井戸状の土坑、流路などが検出されたほか、土師器、中・近世の陶磁器類が出土した。

古墳時代前期の包含層は調査区南西部で検出されたもので、標高は約7.0m、流路(002NR・039NR)による削平を免れた8.0×2.5mと7.0×1.2mほどの範囲である。厚さ20cm程度の暗褐色土層は多数の土器片が含まれるが、上端では不明瞭であったため、基盤層上面を遺構検出面として土坑、ピットなど多数を確認した。プランの大部分が調査区外となるが、壁面の土層観察により022SI、034SIは隅丸方形の竪穴建物の一部と想定され、埋土下層には炭化物層が認められる。土坑004SKは検出面で径約1.0m、深さ19cmの皿状の凹みであり、松河戸I式段階の土師器高坏、壺または甕、小型壺が含まれる。

西から東へと流れる039NRは検出面で幅約7.0m、深さは1.0mであり、東側は南北方向の002NRに削られて不明である。遺物は検出されなかった。002NRは南北の既調査地点から続く流路跡であり、攪拌された埋土中には中世・近世の陶磁器片が混じり、古墳時代包含層と同様な暗褐色粘土質土がブロック状となって含まれる。

まとめ 今回の調査地点まで古墳時代前期を中心とした集落の広がりが確認された。また1930年代の『碧海郡桜井村土地宝典』では、この辺りに東西方向の用水路が記されており、字界付近で検出された東西方向の039NRがこれに関連すると考えられる。(武部真木)



調査区 遠景(南東から)



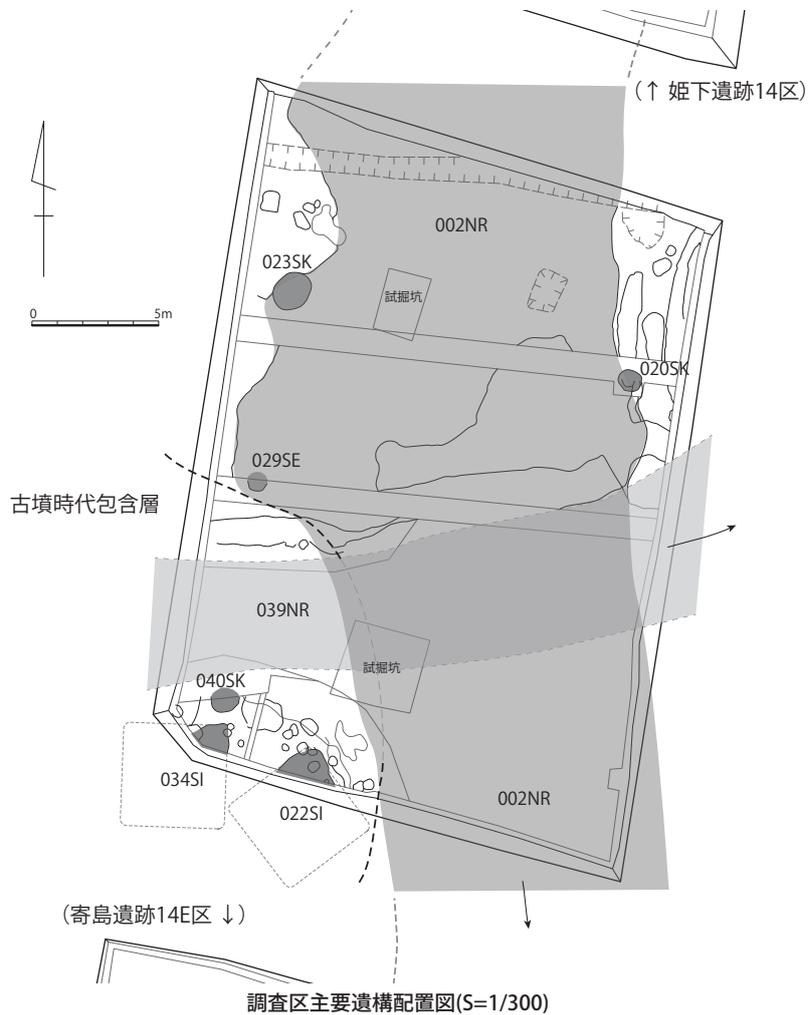
004SK 土器出土状況



032SI(西から)



029SE(上部は002NRに削られている)



調査区主要遺構配置図(S=1/300)